

分かりやすく、ためになる広報紙を目指して

毎月、市政情報をお知らせしている「広報させば」が「させば市政だより」として発行した創刊号から数えて800号を迎えました。ここでは、これまでの掲載記事の中から、特に佐世保の戦後復興に大きく寄与した2つの出来事を伝える記事を紹介するとともに、広報紙の変遷をたどりながら、本市の歴史の一部を振り返ります。

創刊号
昭和26年4月



市民によるまちづくりを進めるため、市民の皆さんの市政への理解をさらに深めていただくことを目的に創刊。物資不足の影響もあり、町内の巡回購からスタートしました。

112号 昭和35年10月

復興の原動力となった軍転法と賛成率97%の住民投票

戦争が終わったとき、佐世保の中心部は一面焼野が原となり、人口はほとんど半分に残っていました。肉親や財産を失った上に、つえとも柱ともたのむ海軍を失って、市民はただぼう然として焼け跡にたえずんだのでした。あれから15年の歳月が流れました。今では戦争の跡がたもなく、町は以前にも増してにぎやかになり、人口もまた大きくふくれました。

私たちのまち「させば」はどうしてこのように早く復興することができ、発展したのでしょうか。もちろん全市民が打って一丸となり、戦後のインフレや食糧難にもめげず、あらゆる苦難を乗り越えて市の発展に努力したことが、その最も大きな原因ですが、それとともに、もう一つ旧軍用施設の転用のあったことを忘れることはできません。

軍転法の誕生

佐世保の生命は何と言っても港です。幸い私たちのまちには明治19年佐世保鎮守府が置かれてから60年間巨額の費用をかけて築き上げられた多くの施設が残っていました。これら旧軍施設を生かし、また足がかりとして、新しい都市の建設を進めることが考えられました。すなわち、国が持っている旧軍用財

賛成率97・3%

新憲法の定めによると、軍転法のように、全国でも4市だけに適用される法律は国会の議決のほか住民投票で過半数の同意がないと制定されないことになっていました。それで、軍転法は国会を通したものの、住民投票の結果いかに問題でした。

昭和25年6月4日、他の3市とともに住民投票が行われました。佐世保市としては、まさに生きるか死ぬかの瀬戸際です。運動や宣伝が大がかりに行われ、熱の入力方でした。おかげで有権者総数9万3234人中、投票率89・43%という市民の熱意を見せ、しかも賛否の成績はと言いますと、賛成7万6678票、反対2117票という圧倒的多数で賛成に決まりました。この賛成率は97・3%で、4市中最高の成績でした。

47号 昭和30年3月

努力の結晶 西海国立公園の指定

(略)佐世保、五島、平戸を結ぶ延々25キロにわたる大自然美をもつことは、軍港としての生命を失った佐世保にとっては全く天与の宝庫ともいうべきものであった。この自然美を生かし観光都市として再起の道を開くことは中田市長就任後ただちに手がけた構想であった。それが今日の西海国立公園を生み出すきっかけとなったもので中田市政のロマンが大きな現実となって現れた訳である。(略)中田市長就任後、西海国立公園期成会の結成で運動の第一歩を踏み出し、昭和25年3月西海国立公園指定定期成会となり、市の事業課観光係が28年に観光課に拡大され、終始一貫国立公園の指定に向かって運動を展開し、遂に29年8月国立指定となったのであるが、道は決して坦々たるものではなかった。しかし、中田市長、佐世保市を中心とする全県下のあらゆる関係者団体、有力者は西海公園の優位性を固く信じ、その真価を問うために、如何なる障害をも乗り越えて進んだのである。(略)誠実と努力の結晶、西海国立公園はこのようにして誕生し、更に大きく飛躍しようとしている。

455号 昭和63年10月



写真はおさよ峠。この号からA4判へ。カラー印刷は3カ月に1度

400号 昭和59年3月



相浦地区たご揚げ大会で200枚の連だこに大喜びの子どもたち

200号 昭和43年3月



早朝から除雪清掃に励む戸尾小学校の児童
※画像下には巻頭写真の説明を記載しています。

503号 平成4年10月



相撲甚句に乗って名物女相撲の練習を行う東浜町女相撲保存会の皆さん

702号 平成21年5月



佐世保市名誉市民となった下村脩博士(ノーベル化学賞受賞)

706号 平成21年9月



「第45回献血運動推進全国大会」に参加された皇太子さま

787号 平成28年6月



旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館の外観(日本遺産認定を記念)

638号 平成16年1月



新みなとターミナルの竣工式でテープカットする関係者の皆さん

679号 平成19年6月



笑顔で初登庁する朝長則男新市長

800号
平成29年7月

広報紙の変遷



広報させば編集長
「キョーちゃん」
平成19年6月号まで

昭和26年4月 「させば市政だより」創刊
タブロイド版(一面が現在の約2倍)、班回覧でスタート

32年4月 町内会を通して各世帯へ配布

63年1月 題字を「広報させば」へ変更、2色刷りへ

10月 A4版12ページへ

平成元年4月 一部フルカラーへ

7月 市民の声を紙面作りを生かす「編集協力員制度」導入

3年4月 全号16ページへ

9年4月 全号20ページへ

13年11月 パソコンで編集作業する「DTPシステム」導入

14年5月 全号24ページへ

16年5月 全ページフルカラーへ

18年4月 全号28ページへ

19年2月 有料広告掲載開始

7月 「ヘルシークッキングコンテスト」連載開始

23年5月 全号32ページへ

24年4月 「徳音通信」連載開始

27年6月 電子書籍での配信を開始

29年3月 読みやすい「二ハールデザイン」対応フロント(書体)を本文などに導入

「ことわざ」に「案ずるより産むがやすい」と申しますが、市政だよりを発行して初めて案ずるよりも産むことの難しいこともあると痛感しました。あれも書いて、こんなことも載せて各市に劣らない立派なものごと計画していましたもの、いざ発行する段になって編集してみますと、なかなか思うようにゆかず「分かりやすく、ためになる」ものをおもっていましたが、かえって逆になるのではないかと心配しておりますが、何分初めての試みでありますので、市民の皆様のご協力を得て徐々に立派なものに育ててゆきたいと思っております。

これは佐世保市政だより創刊号に掲載された当時の広報担当者の「あとがき」です。今回、改めて創刊号を読み直し、目に留まったコラムでしたが、60年以上前の担当者も今と同じような思いで編集に当たっていたことが分かりました。現在の「広報させば」も当時の担当者の思いを受け継ぎ、「分かりやすく、ためになる」広報紙を目指して、スタートアップ。毎号心を込めて作ってまいりますので、今後とも「させば」をよろしくお願いいたします。

秘書課 ☎24・1111